

令和 7 年度第 1 回まちづくりん部会の協議報告について

1 実施日

令和 7 年 8 月 2 1 日（木）刈谷市役所 7 0 1 会議室

2 まちづくりコーディネーターの活動状況について

(1) 活動報告（8 月 2 3 日現在）

《令和 6 年度実績（1 月 2 1 日 第 2 回まちづくりん部会以降） 2 件》

| 関係先 | 内容 | 人数 |
|-----|---|----|
| 市 | ①2/28 ファンドレポートの作成（市民協働課）【定例】 取材先：アートと共生社会を繋ぐ～子ども K A R I Y A 場（B A）～ | 2 |
| | ②3/29 ファンドレポートの作成（市民協働課）【定例】 取材先：刈谷ハイウェイオアシス「マジックショー」 | 2 |
| 合計 | | 4 |

《令和 7 年度実績 5 件》

| 関係先 | 内容 | 人数 |
|-----------|--|-----|
| 自治会 | ①6/24 刈谷市自治連合会勉強会【新規】 地域ヒアリングの結果等（小山自治会恩田 4 組、東刈谷自治会、築地自治会の取組事例）の共有 | 3 |
| | ②8/5 自治連合会・公民館連絡協議会合同研修会【新規】 「アジア・アジアパラ競技大会における地域の関わり方」をテーマとしたグループワークのテーブルファシリテーション | 6 |
| 市 | ③8/4「共存・協働のまちづくり講座」（市民協働課）【定例】 グループワークに市民役として参加 | 6 |
| その他 団体 | ④4/27 実行委員会のファシリテーション（ワールド・スマイル・ガーデンーツ木）【定例】 | 2 |
| | ⑤8/23 一里山福祉委員会座談会のファシリテーション（刈谷市社会福祉協議会）【新規】 | 2 |
| 合計 | | 1 9 |

※8/11 中高生のためのボランティア入門講座（まちこくらぶ自主活動）

学生が刈谷のまちづくりに参画するための一助となるよう、夏休み中の中高生を対象に講座を開催した。

《令和7年度予定 3件》

| 関係先 | 内容 | 人数 |
|-----------|--|----|
| 大学 | ①11/22 地域連携フォーラム2025（愛知教育大学）【新規】 座談会でのテーブルファシリテーション | 6 |
| その他 団体 | ②10/4 桜区福祉協議会座談会のファシリテーション（刈谷市 社会福祉協議会）【新規】 | 2 |
| | ③11/10 東刈谷福祉委員会座談会のファシリテーション（刈谷 市社会福祉協議会）【新規】 | 2 |
| 合計 | | 10 |

(2) まちコ交流会

ア 第1回

日 時：令和7年5月24日（土）13：30～17：00

場 所：刈谷市民ボランティア活動センター

参加者：まちコ11人、元まちコ・つなぎの学び舎修了生5人、
一般6人（市民活動団体、学生ほか）、世話人2人、
市まちづくり推進課1人 計25人

内 容：第1部 まちとまちコの交流

第2部 みんなで住みたいまちを話し合う

イ 第2回

日 時：12月14日（日）午後

場 所：刈谷市民ボランティア活動センター

内 容：活動収穫祭

(3) つなぎの学び舎

ア まちづくりコーディネーター養成講座

今年度は7月～2月の全7回講座。受講生は21人。

・第1回 7月5日（土）「まちづくりの思い、聴いて語ろう」

刈谷市民ボランティア活動センター長の米田正寛さん、まちコ1期生の小森義史さん、3期生の久保田富士子さんをゲストに招き、「つな

がりづくり」の大切さを学んだ。

- ・第2回 8月2日(土)「話し合いの「ファシリテーション」とは」
フリーランスファシリテーターの稲葉久之さんを講師に、実際に体験
を交えながらファシリテーションの心構えや基本スキルを学んだ。
- ・第3回 9月6日(土)「まちづくり活動の現場から学ぼう」
重原自治会の鈴木勉さん、ワールド・スマイル・ガーデンツ木の
及川啓太さんをゲストに招き、地域活動やNPO活動について理解を
深めるとともに、まちづくりの喜び・苦労について学んだ。
- ・第4回 10月4日(土)「まちづくり活動の企画をたてよう」
- ・第5回 11月1日(土)「話し合いの「場づくり」とは」
- ・第6回 12月6日(土)「つながりたい！広報の仕方を考える」
- ・第7回 2月7日(土)「わたし発のまちづくりを提案しよう」

イ まちづくりステップアップ講座

既に「まちづくり活動をしている人（まちコ含む）」が実践に役立つ力
を高めるための講座。今年度は6月、2月の全2回で、単発参加可能。

- ・第1回 6月8日(日)「共感や協力を得る方法」
(特) ボラみみより情報局代表の織田元樹さんを講師に、仲間と資金
を募るための広報・運営の仕方について学んだ。参加者13人（う
ち、まちコ5人）。
- ・第2回【まちコ限定】2月21日(土)「企画会議 会議のデザイン、
場づくりの準備～まちコ企画をやろう！～」

3 共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討

【資料1－2参照】

共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討

【部会の協議方針】

- ・地域活動の活性化に向け、共存・協働により各自治会等では取り組まれるとよいことについて検討する
- ・課題が具体的にになっている地域をモデルに取組を考える

1) 自治会への事例共有（刈谷市自治連合会勉強会）

- ・日時及び会場：令和7年6月24日（火）10時～11時30分 刈谷市役所防災会議室
- ・参加者：23自治会長（1名欠席）
- ・事例発表者：まちづくりコーディネーター 桑畑、小森、鈴木
- ・共有事例：

| A：小山自治会恩田4組 | B：東刈谷自治会 | C：築地自治会 |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・「組単位」のLINE使用で、地域の情報伝達を円滑に →① ●回覧板の内容をデジタル化して共有するために公式 LINE を活用。お試し感覚で紙媒体と並行して始めたことで、抵抗なく組内への浸透が進んだ。「過去の回覧板を見返すことができる」等、地域の情報伝達の利便性が高まった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災イベントで、助け合えるつながりをつくる ・会計業務を整理する、事務員を雇用する ・地域課題（要望）情報提供・改善活動のフローを整理 | <ul style="list-style-type: none"> ・次につながる役員体制の構築 →② ●自治会長に業務が集中し、負担大で交代困難な状況があったため、地区全体で協力して活動できる体制を模索。まちコが地区の定例会に伺い、部門や委員を統合・廃止・新設して体制の再編を手伝った。次期自治会長は合議制で選出する予定。 |

2) 関心の高かったテーマについて

①LINEでの電子回覧板

【自治会長の関心事項（会議で出た質問など）】

- ・事務局がマニュアルを持っていれば展開してほしい。
 - 恩田4組より「LINEでの電子回覧板運用マニュアル（環境構築後）」について提供いただけたため、ほしい自治会に展開中。
- ・現在、小山自治会内で何組が実施しているか？まだ実施していない組は何がネックなのか？
 - 1組だけが実施。恩田4組は、少ない世帯数・デジタルに精通した役員・若い組員が多い、これらの要素が揃ったことで実施が可能であった。
- ・今川：「自治会単位」で実施しているが、登録者が増えない悩みがある。
- ・一里山：「班単位」で実施しており、料金に関する情報提供あり。

【今後の活性化に向けて】

- ・関心度が高い自治会は、マニュアル展開以降、導入に向けて動き出す可能性あり。

◎まちコの関わりの可能性について；導入に向けた後方支援

- ・導入に関して役員間等で共通イメージを持つための話し合いのサポート
- ・地域内での進め方のアドバイス
- ・デジタル化のサポート

【部会での意見】

●デジタルと紙媒体を並行しながら

- ・小山自治会恩田4組の事例を参考に、自身の地域でも10月に市民だよりが月に1回になるのを機に、紙と電子を併用しつつ、少しずつ切り替えていく予定。
- ・世帯数が多くなると、公式LINEは有料になってしまう問題があり、市から補助がもらえるとよい。
- ・若い人の協力や中高生にちょっとお手伝いしてもらえないか考えてみる等、それぞれのよいやり方を考えてもらうとよい。ただ、よい事例の展開でもいきなりだと拒否反応が起こるかもしれないため、じわりじわりと、自然に導いていく等の工夫があるとよい。

「自治会業務効率化支援事業補助金」をご活用ください！

●個人情報記入はQRコード申込で直接主催者へ

- ・地域のイベントを行う時、回覧でリストに参加者情報を記入するのは（回す中で見られるので）嫌という声を聞く。そのため「お宝さがしウォーキング」では申込をQRコードに変えた。1年目は7割ほどがQRからの申込、2年目はもっと増えた。そうしたネット上での情報伝達はさらに必要になる。

●取りこぼされる人がいないように

- ・障がいのある方たちが、LINEの回覧板に自分で登録して情報をキャッチすることができるのか等気になる。そうした方もうまく巻き込めるような部会ができればよい。

②次期自治会長の決め方

【自治会長の関心事項（会議で出た質問など）】

- ・「エレベーター方式」から「合議制」へ変更を考えていることについてもっと知りたい。
- ・合議制とは、どのように決めるのか？
→各行事等に組長・班長が参加しているため、彼らが次期自治会長として相応しいと思う人を選ぶ予定。
自薦、他薦は問わない。

【今後の活性化に向けて】

- ・関心の高いテーマだが、築地自治会のその後の状況を確認した上で、他自治会への展開を考える必要あり。

◎まちコの関わりの可能性について；築地自治会のその後を追跡。

- ・新体制への移行に関するフォローアップ

9月27日に新体制の実情を確認する「振り返り会」実施予定。

- ・取り組みのうち「次期自治会長の決め方」は他自治会の関心度が高いため、過程を追うことで引き続き他自治会に展開可能な要素を探る。

【部会での意見】

●役員選出が合議制に変わった効果・プロセス

- ・半城土自治会でも、自治会長の決め方はエレベーター方式から合議制に変わった。会合時に、組長から推薦が何人か出て、相応しいと思う人に丸をつける形になった。ここ2、3年合議制の話は少しずつ出ており、噂になっていた。決め方を変えたことで役員の若返りも起きた。また、「女性が組長になってもよいよね」という声も出始め、転換期を感じているものの、地区内で古い感覚と新しい感覚の差があるのも現状。
- ・以前は順番（1班から役員が出たら次は2班から出る等）で役員を交代していたが、それが難しくなってきた。空き家もあり、施設入所者もあり、共働き世帯等もある。そのため、方法を変えたいと思う人も多い一方で、地区によっては重鎮もあり、その人の承諾がないと変えるのが難しいという状況や、役員が1年で変わるため、1年

間活動して改善点が見つかったも、自分が役員を降りることになり結局変えられない、という状況もあると聞いた。

●役員をする楽しさを伝える、持続可能性のあるつながりネットワーク、役員外の力の活用

・役員の大変さを目の当たりにすると、正直自身が引き受けるのは嫌だなと思ってしまうところもある。嫌だと思わないような仕組みとは、どのようなものだろうか。

→「楽しいことを見つけること」だと考える。委員として参加してやり遂げた時の楽しさが伝わると良い。

→その声をもっと伝えてほしい。

・以前地域の防災の情報を私たちに丁寧に声掛けし、新しい世代もうまく巻き込んでくれていた人が辞めてしまい、その人と交流がなくなってから防災の情報が分からなくなってしまったこともあり、世代交代の仕方も大事だと思う。

・「外部に任せる」手法もある。「小垣江西高根を明るく元気にする会」のように、イベント好きなおじいちゃんおばあちゃんの集まりなどが子ども会の代わりに実施していただけるのもよい。

3) その他

・以下を引き続き募集及び必要に応じて声掛けし、まちコを含む市民活動をする人たちがどのように地域活動に参画したら、地域が抱える様々な課題の解決に役立つのか、またよりよい活動につながるのかを検討する。

以下、大募集中！！

1) うちの自治会の取組みについて、ヒアリング来て！を大募集！

→良い感じにまとめて皆さんに共有します 📌

2) 今日の事例のココ！取り組んでみたい！詳しく教えて！を大募集！

→まちコが伴走支援します 📌

(必要に応じて該当自治会と一緒に聞きながら)

3) お困りごと・悩みごとがあれば、お気軽にまちコへ相談してくださいね ❤️

→一緒に考えたら、思ってもみなかった解決方法が見つかるかも？！

【全体に関する部会での意見】

●自治会加入への働きかけ

・自治会の加入を増やす手段としては防災が一番よい。自治会に入るメリットは、南海トラフ地震など災害が起きた時に助け合いができることだと思う。

・他市の事例だが、自治会加入に難色を示す人には「お試し期間」を設け、初年度は会費を取らずに自治会の情報を提供し、サービスを利用できるようにしている。お試し利用の結果、対象者が加入を希望すれば正式に自治会に入る、という工夫をして加入者を増やしていた。

●活動を知らない状況、子どもたちのまちへの関心度

・報告にあったような活動を自身が前回の委員会で初めて知ったように、同世代の多くは知らない。勤労者世代・共働き世帯に情報が行き渡ると生活が充実するのに、なぜ知らない状況が起こるのかと思った。

・子育てをしており、中学校での地域のイベントのボランティアは情報が伝わっている。参加が内申書のアップにつながる噂もあり、ボランティアには行くが、それっきりが多い。「もっとまちを知りたい」ということにつながらないケース

が多く、どうしたら子どもが行きたくなるのか考えたい。

- ・富士松中学の生徒が防災イベントに参加していたが、東日本大震災以降、発災時に小中学生は弱者ではないんだ、自分たちも役に立つんだ、という考えが浸透してきたと思う。小学校高学年、中学生は、地域のことをよく知っており、安否確認の際、非常に力になる。

令和7年度第1回夢ファンド部会の協議報告について

1 実施日

令和7年6月24日（火） 刈谷市役所804会議室

2 かりや夢ファンド補助金について

今年度初めての部会であるため、補助金概要のおさらいと補助メニューの紹介、令和7年度夢ファンド部会のスケジュールについて説明した。

3 これまでの実施事業および寄附金について

（1）実施事業について

「まちづくり活動支援事業」「NPO法人設立支援事業」のうち、特徴的な活動についてスライド資料をもとに紹介した。

（2）寄附金について

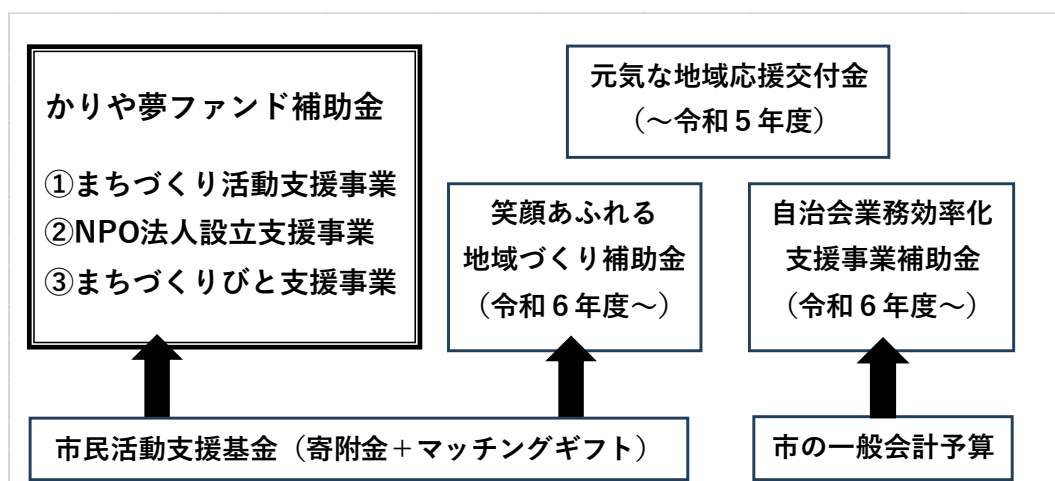
令和6年度はトヨタグループや市民、ふるさと納税等から、1,994,487円の寄附をいただいた。いただいた寄附と同額を市も積み立てるマッチングギフトと、運用収入額を合わせて4,094,603円が昨年度収入。そして、かりや夢ファンド補助金で17件、笑顔あふれる地域づくり補助金で16件に補助金を交付し、2,515,300円が昨年度支出となった。

※笑顔あふれる地域づくり補助金…住民の顔の見える関係づくり又は活力ある地域づくりに取り組む自治会等に対して補助金を交付することにより、地域コミュニティの強化促進、市民活動の活性化を図ることを目的としているもの。「かりや夢ファンド補助金」とは別の補助金だが、「市民活動支援基金」という同一の基金を財源としている。

（3）部会での主な意見

- ・かりや夢ファンド補助金で、75周年記念事業に取り組む予定はあるか。
→市制65周年と70周年では、コラボ65、70としてかりや夢ファンド補助金で周年事業に取り組んだが、75周年では自治会向けの継続支援へ着眼点を変え、別メニューの補助金で実施する。（次ページの「図：

補助金の仕組み」参照)



図：補助金の仕組み

- ・かりや夢ファンド補助金を使った取り組みの認知度アップにむけて…
- ・Google フォーム等でのアンケートで認知度や参加のきっかけなどを把握し、次の展開につなげられるとよい。
- ・活動自体が、ターゲットに対して伝わってはいらぬものの参加していないのか、そもそも伝わっていないのか、それによって課題が変わる。予算がかからない程度に現状把握に努めていけるとよい。
- ・アンケートを紙で書くのは大変なので、会場に QR コードを掲示して簡単に答えられるとよい。
- ・アンケートフォームを用意すれば、集計結果は一元管理でき、団体の手間は少なく負担にはならないのではないか。

4 令和7年度募集の手引きについて

(1) 内容

通年で募集している「まちづくりびと支援事業」と、既に募集を締め切っている「まちづくり活動支援事業（5万円以下）」の手引きを紹介した後、7～9月にかけて事業を募集する「まちづくり活動支援事業（5万円超～20万円以下）」「NPO法人設立支援事業」の手引きについて、これまでとの変更点を説明した。

【まちづくり活動支援事業補助金（５万円超～２０万円以下） 変更点（７点）】

- ア 一部前払い（交付決定額の２分の１まで）が可能になった。
- イ 補助率を２分の１から３分の２へ引き上げた。
- ウ 補助回数が「１団体原則２回まで」から「１団体につき１０年度間で３回まで」へ変更になった。
- エ 申請書類に「事業継続に向けた計画書（任意提出）」を追加した。
- オ 補助金の交付は、「かりや夢ファンド補助金のPR をすること」を条件とした。
- カ 「備品購入費」を、おすすめの補助金活用先として紹介した。
→事業を継続していくためのお金の使い方を団体に伝え、経営のセンスを磨いてもらうため。
- キ 「領収書等により、事業経費として明確に支払ったことが確認できない経費」は対象外経費になり、また「利益相反に当たる経費」は対象外経費になる可能性があることを追記した。

【NPO法人設立支援事業補助金 変更点（１点）】

- ア 対象経費に「その他の経費」を追加した。
→補助金を支払える経費の幅を広げるため。

（２）部会での主な意見

- ・ 申請例により、申請可能回数が３回までに変更になったことが分かりやすい。事業を継続することが大変であり、それを応援する枠ができた点は評価できる。年単位の計画を立てて成長したいという申請が出てくることを期待したい。前提として、この補助金は必ず継続される認識で良いか。
→「予算が成立すること」が条件になるが、継続することに関しては庁内で合意が取れている。
- ・ ３か年で４０万円まで活用できる枠組みを浸透させるためにも、すべての団体にとって将来を見据えて計画を立てることは大切であるため、任意提出ではあるが、「事業継続に向けた計画書」を相談の際に活用いただけると良い。
- ・ 対象経費について、備品購入費に「おすすめ」と記載したことで、活動を

継続するために「消耗しない」備品がお勧めであるという意図が伝わると良い。

5 まちづくり活動支援事業補助金(申請額 5 万円以下)書類審査

【資料 2 - 2】参照

6 今後の予定

(1) 第 2 回夢ファンド部会

1 1 月 1 2 日 (水) 午後 2 時～@刈谷市役所 1 階 1 0 1 A

(2) 第 3 回夢ファンド部会 (公開審査会)

令和 8 年 1 月 2 4 日 (土) @刈谷市民ボランティア活動センター

まちづくり活動支援事業補助金（申請額5万円以下）

| | 団体名 | 事業名 | 回数 | 事業目的 | 事業概要 | 事業費 (円) | 補助申請額 (円) | 得点 (点) | 補助採択額 (円) | 採択結果 |
|---|--------------|---|----|---|--|------------|--------------|-----------|--------------|------|
| 1 | 刈谷発達仲間の会 | 漫画家【沖田×華】さん/ トクシヨ『やらかしたっていいじゃん！！』 | 1 | ・大人の“発達障がい当事者”の声に耳を傾け、一緒になって考えることで誰もが生き易く住み易いと感じる町づくりにつなげたい ・『障がいへの理解を深める』をテーマに個性差を受け入れ、共生社会の推進を図る一助になりたい ・“発達障がい”は治療で改善が見られても、完治は難しい病気です。対人関係の困難さや“こだわり”の強さが特徴とか、読み書きや計算の学習が困難な症状もあります。成人になってから社会の中で悩みを一人で抱え込まずに本音で話し合える場所を作りたいと、当会発起人”近藤茜（アサ）”の願いの実現を目指し活動を続けて参りました | ・事業開催日時：令和7（2025）年11月30日（日）午後2時～4時 ・開催場所：刈谷市総合文化センター・小ホール 275席 ・事業主催者：刈谷発達仲間の会 ・対象者：障がいの特性の影響で困ったり、辛さを感じている人・子の障がいに悩み、その子の成人後の対応に心配を抱く人達・障がいのある人を理解し、一緒に暮らせる町づくりを目指す市民の皆さん ・障がいの辛さや悩みを抱えながらも社会で活躍する方の講演を聞き、日常生活の中で経験する障がいをどう切り抜けて行くのかを、対談形式の意見交換をし、生きて行く為の参考にして頂ける事を願います | 191,000 | 50,000 | 19.29 | 50,000 | 採択 |
| 2 | Officeアイリスの華 | マグノリア室内管弦楽団 特別演奏会 「Meet the Composer Vol.2」 ドヴォルザークの青春 | 2 | 日頃、趣味で培った技を発表する場を提供し、人と人が繋がり文化向上に繋がることを願っています。 また、心に響くクラシック音楽を解説付きで鑑賞していただき、地域文化向上の普及にも努めたいと思っています。 | 令和7年9月15日（月・祝） 刈谷市総合文化センター 大ホール 管弦楽愛好家に発表の場を、団体に所属していない愛好家に合奏の場を、クラシック音楽初心者に朗読愛好家の解説付きでわかりやすくクラシック音楽を楽しんでいただく。 マグノリア室内管弦楽団の中に、想いに賛同してくださる管弦楽愛好家を募り、練習を重ね、演奏会をおこなう。 作曲家や演目の解説をおこない、クラシック音楽をより身近に感じ楽しんでもらう工夫をする。 | 356,000 | 50,000 | 17.86 | 50,000 | 採択 |
| 3 | ヒラソラ | Co-nec-to みんなで育つ！ 子どもと大人をつなぐ刈谷 コミュニティプロジェクト | 1 | 子育て期の孤立感を軽減し、地域に「顔の見える関係性」を増やす。学生や保育士が子どもを見守る時間をつくり、保護者がリフレッシュできる環境を整える。学生の社会教育にも貢献する。 | 〈いつ〉令和7年8月～翌3月／〈誰が〉学生2名＋保育士1名（保育士はヒラソラメンバーの紹介による有資格者（友人・知人）から各回1名ずつ派遣していただきます。）＋団体メンバー／〈どこで〉亀城公園・南部生涯学習センター多目的室・刈谷市体育館多目的室・宿泊室／〈対象〉未就学児～小学生と保護者 計20世帯程度／〈何を〉①月例親子交流イベント（4回）②お泊まり体験イベント（1回）／〈方法〉見守り保育・ワークショップ・地域回覧板&SNSによる周知／〈工夫〉大学生がゲーム・工作を企画し、保育士が安全管理と保護者相談タイムを担当。 | 150,000 | 50,000 | 17.57 | 50,000 | 採択 |
| 4 | サブロー・ガルテン | 俳優松原実智子さんの朗読 を聞く会 VOL.2 | 2 | 子供や一般市民の方に向けての朗読会を行なうにあたって、よりお話を理解し、感動を伝えることができるよう、俳優さんの朗読を聞いてレベルアップを図る。お話会ボランティアと共に向上を目指す。 | ・令和8年3月、サブロー・ガルテンが総合文化センターで講師を招いて朗読会を開催する。 ・絵本「かすがいむかしばなし」より、民話の朗読を聞き、人に感動を与える伝え方や表現法について話し合う。 ・後の研鑽のため、録音・録画などの記録を取る。 ・対象は読み聞かせボランティアや朗読愛好者とし、互いの交流を通して市民文化の向上を目指す。 | 100,000 | 50,000 | 16.86 | 50,000 | 採択 |

令和 7 年度 市民協働事業の進捗状況について

| | 事業名 | 概要 | 実施内容 |
|---|------------------------|---|---|
| 1 | 共存・協働のまちづくり講座 (学習編) | 共存・協働のまちづくりを進めていくため、市民と行政が協働を進めていく上での考え方と、行政の対応の仕方について学ぶ。 | 令和 7 年 8 月 4 日 (月) 開催 <ul style="list-style-type: none"> ・受講者数：入庁 3 年目の職員等 33 人 ・大野裕史氏に、「協働するとはなにか」について市職員の立場や役割を鑑みながら講義をしていただいた後、まちコより共存・協働の事例について紹介、市職員より「共存・協働心得帳」について説明した。 ・地域づくりコーディネートゲームを使用し、限られた資源や条件を使って、どのように目的に対して物事をコーディネートしていくかを考えるグループワークをした。 |
| 2 | かりや衣浦 つながるねット | 刈谷市、知立市、高浜市、東浦町間の市民活動情報サイトで、イベントや団体に関する情報の閲覧、参加者やボランティアの募集・申込等ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・10月19日(日)に、刈谷市総合文化センターで開催される「福祉健康フェスティバル」にて、つながるねットPRブースを出展する。ブースでは、つながるねット操作体験、PR動画上映、缶バッジ製作体験等を予定している。 ・令和 8 年 2 月 5 日 (木) 10 時～、刈谷市民ボランティア活動センターにてつながるねット団体交流会を開催予定。 |
| 3 | わがまちの つむぎ場 | 市民活動団体、企業、市民等が出会い、つながる場であるボランティア活動見本市を開催する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・12月7日(日)に市民ボランティア活動センターにて開催予定。 ・参加団体は、30 団体程度を予定。 ・センター入口前のロビーにて、団体の作品展示や活動の体験ブースを実施予定。 |

| | | | |
|---|----------------------------|---|--|
| 4 | 共存・協働の まちづくり講座 (実践編) | 様々な主体と協力・連携した まちづくりを進めていくた め、市民と行政が協働を進め ていく上での考え方、行政の 対応の仕方について学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年1月30日（金）開催予定 ・受講対象者：令和6年度、7年度に係長・園長になった市職員 |
| 5 | わがまちの しゃべり場 | 市民同士の対話を通して、地 域や活動における課題を参 加者自らが気づき、自らが解 決するためのきっかけを提供 する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年2月14日（土）市民ボランティア活動センターにて開催予 定 |
| 6 | 協働のまつり場 | 市の施策に関して、市民・地 域団体・市民活動団体等と 行政が意見交換する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末に実施した「共存・協働のまちづくりの推進に向けた職員ア ンケート調査」の結果を踏まえ、意見交換テーマ及び対象部署を検討 中である。 |

共存・協働のまちづくりの推進に向けた職員アンケート調査の結果

【調査のねらい】

・平成 23 年度に実施した職員アンケート調査から 10 年以上が経過していることを受け、職員意識及び取り組みの現状把握と、今後の事業の参考とするため。

1) 調査概要

- ・対象者：全職員（会計年度任用職員を除く）
- ・実施期間：令和 7 年 3 月 18 日（火）から 3 月 31 日（月）まで
- ・実施方法：職員ポータルサイトの「周知徹底」―「調査業務」機能を利用して実施
- ・回答人数：927/1231 人

2) 調査結果

【資料 4 - 2 参照】

3) 対応状況

【1】市民協働職員研修「共存・協働のまちづくり講座（学習編）」

調査結果から、共存・協働のまちづくりの必要性を認識している人の割合は高い（問 2：74%）ものの、内容の理解度や実施率は低い（問 3：34%、問 4：20%）ことが伺えた。また、何を共存・協働で取り組んだらよいか、どうやって進めるか（協働相手の見つけ方含む）が分からない」という課題が多く挙がったこと（問 13：領域 47%、手法 34%、問 12：かりや衣浦つながるねット認知度 27%）を踏まえ、R7 年度実施に当たり次の工夫を行った。

ア：共存・協働のまちづくり事例を紹介

『まちとまちコの交流会』をきっかけに実施した取組の「刈谷いっぶく茶屋初陣」をまちコ 2 人から報告。

市民参加のイベントがどのようにして開催まで至ったか、実践者の立場から紹介した。
★ころばしにも掲載



イ：「市民」の視点を体験的に学ぶ

グループワークにおいて、地域づくりのコーディネートの仕方、協働のまちづくり企画を疑似体験した。カードを引いて出た役割に参加者がなりきって、「市民」の視点を意識して取り組まれた。

各グループに 1 人まちコの皆さんが市民役として参画し、市民の立場からの意見をサポートした。

ウ：「かりや衣浦つながるねット」で活動情報を知る

地域づくりのコーディネートに必要となる地域資源を調べる方法の一つとして、つながるねットを紹介。

エ：まちづくりの必要性を強調

前回調査と比べ、必要性があることを知っている割合が減少したことから、基本講義で「なぜ協働が必要か」に重点を置き伝えた。

【2】ファシリテーションに関すること

共存・協働を取り入れた業務を実施する際の「課題」や「あるとよかった支援」として、ファシリテーションに関するものが多く挙がった（問 6）ことを踏まえ、以下を実施した。

ア：まちづくりコーディネーター（まちコ）のさらなる周知及び活用促進に向けた宣伝

引き続き、職員ポータル掲示板等で「まちとまちコの交流会」の案内をするとともに、他機関・他部署との打合せ

などの機会を捉えて、まちコ活用の提案をした。結果として、「アジア・アジアパラ競技大会推進室」や「愛知教育大学」等からの新規依頼につながった。

イ：つなぎの学び舎（まちづくりコーディネーター養成講座）を職員へも案内

話し合いの場において、まちコなど第3者の参画だけでなく、市職員自身がファシリテーションや場づくりを学び、実践につなげられるよう、つなぎの学び舎（全7回連続講座）について単発受講を可能とし、次の講座の参加職員を募集した。第2回については、参加者は居なかったものの、引き続き第5回の参加者を募集する予定である。

- ・第2回「話し合いの『ファシリテーション』とは」：令和7年8月2日（土）開講済
- ・第5回「話し合いの『場づくり』とは」：令和7年11月1日（土）開講予定

【3】まつり場

調査結果から、市の事業に関する意見交換・対話の場を経験したことのある人は少なく（問7：29%）、経験のない理由として「参加団体の意向・不在」「実施部署のノウハウ・経験不足」「参加部署の認識・意向」が多いことが伺えた（問9：全て18%）。また、現在の部署において連携が必要と感じている事業や協働相手について237人より回答があった（問11）ことを踏まえ、市民協働課が主導して実施する「まつり場」の今年度の意見交換テーマ及び対象部署を検討中である。意見交換テーマの候補は以下のとおり。

なお、まつり場の対象とならなかったテーマについても、部署間等のマッチング可能性のある回答を庁内に共有することで、共存・協働に関する取組みの促進を図る。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ・ふるさと納税 | ・健康づくりのアプローチ |
| ・公共施設の空間利用について | ・公共交通のあり方やバリアフリーの考え方 |
| ・防災 | ・ボランティア団体の共通課題へのアプローチ |
| ・多文化共生に関する取組 | ・保育、子育て |
| ・地域で活躍するコーディネーターの把握や連携 | |

【4】共存・協働を取り入れた業務例や、当該業務を実施する際の工夫・課題の共有

調査結果から、共存・協働を取り入れた業務として、市民意見を反映した計画策定・イベント企画や、市民参加の「場づくり」・合意形成に関わるものが多数見受けられ、様々な分野において共存・協働の取組みが進められていることが確認できた（問5）。また、共存・協働を取り入れた業務の実施にあたり、各職員が工夫した点や課題と感じたことが集約できた（問6）ため、今回の調査結果を庁内に共有することで、取組みの質の向上や、新たな取組みのきっかけとなることを期待する。

4）今後に向けて

【1】刈谷市民ボランティア活動センター機能、市民活動情報サイト（かりや衣浦つながるねット）の周知

調査結果から、共存・協働を取り入れた業務を実施する際の「課題」や「あるとよかった支援」として、マッチング機能や情報の一元化に関するものが多く挙がり（問6）、当該ニーズがあることが確認できた。また同時に、当該ニーズを満たす仕組みの1つである、刈谷市民ボランティア活動センター（以下、ボラセン）のマッチング機能や、かりや衣浦つながるねット（社会資源や補助金、支援策など様々な情報の一元化が可能。）が職員に認知されていないことが伺えた。

そのため、職員ポータル掲示板での定期的な周知や、ボラセンツアー、共存・協働のまちづくり講座の事前課題

に組み込む等、さらなる周知に努める必要がある。また、各部署に対し、ボラセンが実施する「つむぎ場」への参加を引き続き促すことで、サイト上での情報提供に留まらず、対象者へ対面での情報提供や部署間の情報共有を図る。

なお、つむぎ場は「市民活動団体と地域団体の連携を促進する場」としての機能も持つものの、近年の開催においては市民活動団体・NPO 法人・企業の参加に留まっている傾向があり、自治会の参加はほとんど見受けられない。そのため、令和 8 年 2 月の「自治連合会・公民館連絡協議会合同研修会」にて、自治会長及び公民館長を対象に「自治会と市民活動団体等との連携の大切さ」をテーマとした場を設けることで、協働意識の向上とボラセン機能のさらなる周知を図る。

【2】「ぼらっちくんのこらぼレポ」の周知

共存・協働に対する意見として挙げた以下を踏まえ、共存・協働の取組みの好事例を庁内各部署や各主体へ共有できるよう、市内の協働事例を集約した「ぼらっちくんのこらぼレポ Vol. 5」を現在作成中である。バックナンバーも含め、当該事例集のさらなる周知に努める必要がある。

（問 14 より回答抜粋）

- ・立場の違う多くの団体や個人と共存・協働がなされるように配慮が必要だと思う。
- ・市の施策を自分事と捉えてくれる市民が少ない。そうした市民を増やし、活かす取り組みが必要ではないか。

共存・協働のまちづくりの推進に向けた職員アンケート調査の結果

【調査結果（全 14 設問）】

問 1：あなたの職位を選択してください。

答 1：クロス集計用の設問のため省略。

問 2：第 8 次刈谷市総合計画では、基本構想を推進していく上で留意すべき基本的な考え方のひとつに「多様な主体との共存・協働によるまちづくりの推進」が示されており、本市として、「共存・協働のまちづくり」を進めていく必要があることを知っていますか？

答 2：

・「知っている」は全体 74%であり、前回調査「知っている」85%から減少した。「知らない」は全体 26%となり、前回調査 15%から増加した。

・職位が上がるほど「知っている」割合が高くなる傾向がある。

| 職位 | 知っている (数) | 知らない (数) | 知っている (%) | 知らない (%) | 小計 (数) |
|-----------|--------------|-------------|--------------|-------------|-----------|
| 部長級 | 15 | 0 | 100% | 0% | 15 |
| 課長級・監級 | 42 | 1 | 98% | 2% | 43 |
| 課長補佐級 | 65 | 2 | 97% | 3% | 67 |
| 係長級 | 131 | 13 | 91% | 9% | 144 |
| 主査級・主任主査級 | 196 | 72 | 73% | 27% | 268 |
| 主事級 | 222 | 141 | 61% | 39% | 363 |
| 技能労務職 | 11 | 16 | 41% | 59% | 27 |
| 今回 | 682 | 245 | 74% | 26% | 927 |
| 前回 | 364 | 66 | 85% | 15% | 430 |

問 3：「共存・協働のまちづくり」とはどのようなことを示すのか知っていますか？

答 3：

・「知っていて、内容もある程度理解している」は全体で 34%となり、前回調査 32%から微増した。「言葉は知っているが、内容はほとんど分からない」は全体で 56%、前回調査 60%に比べてやや減少した。

・職位が上がるほど、理解する割合が増える傾向がある。

| 職位 | 知っていて、 内容もある程度理 解 (数) | 言葉は知って いるが、内容 は分からない (数) | 知らない (数) | 知っていて、 内容もある程度理 解 (%) | 言葉は知って いるが、内容 は分からない (%) | 知らない (%) | 小計 (数) |
|---------------|-----------------------------|-----------------------------------|-------------|-----------------------------|-----------------------------------|-------------|-----------|
| 部長級 | 14 | 1 | 0 | 93% | 7% | 0% | 15 |
| 課長級・監級 | 36 | 6 | 1 | 84% | 14% | 2% | 43 |
| 課長補佐級 | 44 | 23 | 0 | 66% | 34% | 0% | 67 |
| 係長級 | 76 | 64 | 4 | 53% | 44% | 3% | 144 |
| 主査級・ 主任主査級 | 76 | 166 | 26 | 28% | 62% | 10% | 268 |

| | | | | | | | |
|-------|-----|-----|----|------------|------------|-----|-----|
| 主事級 | 65 | 241 | 57 | 18% | 66% | 16% | 363 |
| 技能労務職 | 2 | 16 | 9 | 8% | 59% | 33% | 27 |
| 今回 | 313 | 517 | 97 | 34% | 56% | 10% | 927 |
| 前回 | 136 | 259 | 35 | 32% | 60% | 8% | 430 |

問４：現在の部署も含め、これまでの市役所業務の中で、共存・協働を取り入れた業務に携わった経験はありますか？

答４：

・「はい」は全体で 20%、前回調査 23%から 3%減少した。「いいえ」は全体で 52%、前回調査 52%と比較して横ばいの結果であった。

・「よく分からない」が全体で 28%で、前回調査 25%から増加した。

・「はい」の減少や「よく分からない」の増加について、「共存・協働を取り入れた業務」の認識が職員によって異なる可能性が推察される。例えば、事業の一部分のみ取り組んだものなどは該当業務として意識されていない等、共存・協働に対する理解が進んだ結果、より厳しい基準で判断された可能性も考えられる。

| 職位 | はい | いいえ | よく分からない | はい | いいえ | よく分からない | 小計 |
|-----------|-----|-----|---------|------------|------------|---------|-----|
| 部長級 | 13 | 2 | 0 | 87% | 13% | 0% | 15 |
| 課長級・監級 | 24 | 16 | 3 | 56% | 37% | 7% | 43 |
| 課長補佐級 | 26 | 36 | 5 | 39% | 54% | 7% | 67 |
| 係長級 | 55 | 62 | 27 | 38% | 43% | 19% | 144 |
| 主査級・主任主査級 | 43 | 157 | 68 | 16% | 59% | 25% | 268 |
| 主事級 | 27 | 197 | 139 | 8% | 54% | 38% | 363 |
| 技能労務職 | 0 | 13 | 14 | 0% | 48% | 52% | 27 |
| 今回 | 188 | 483 | 256 | 20% | 52% | 28% | 927 |
| 前回 | 100 | 225 | 105 | 23% | 52% | 25% | 430 |

問５：問４で「１ はい」と回答した方にお聞きます。①どのような業務ですか？

答５：161 人より回答あり。以下、内容別に抜粋して掲載。

①市民など多様な主体が参加する場（会議（意見聴取含む）、イベント）の開催・参加

- ・共存・協働のまちづくり推進委員会や協働のまつり場など、市民協働課での業務を経験した
- ・2020 年、女性会議に参画し、コロナ禍における共存・協働のあり方について考えた。
- ・交通安全や防犯の意識を高めることを目的として、各地区と会議を開催した。
- ・地域で活動する子育て支援団体が、地域の子育て支援の担い手として力を発揮し、保護者の情報交換や親子の友達づくりの機会となるよう、子育て支援のためのネットワーク会議を開催している。
- ・外国人の団体同士の交流や地域住民との交流を目的とした「多文化交流フェスタ」の運営に関わった。
- ・小堤西池のカキツバタ群落の保護活動において、地元や大学教員などの意見を取り入れて保存活用計画を策定した。
- ・障害者自立支援協議会及び部会の実施による支援体制整備、各種計画策定時の団体ヒアリング、住民会議の開催
- ・第 7 次総合計画策定時に市民の意見を計画に取り入れるため、かりや未来会議を開催した。

- ・地域住民などと公園整備に向けたワークショップを開催した。
- ・地区、福祉団体等と連携し、公共交通に関する意見交換会を開催し、公共交通計画の策定、かりまる路線の検討を実施した。
- ・地元まちづくり団体が進める民間再開発と一体的な公共施設整備を進めるため、協議会での意見交換をおこなった
- ・まちづくりの担い手の発掘、育成を目的として「自由参加の市民会議（カリマチ会議）」を開催している。
- ・「ネットワーク会議」にて、図書ボランティア団体を集め、団体同士の交流を図った。また教諭もその場に同席いただき、ボランティア団体の困りごとや学校での事情など情報共有を行った。

②市民など多様な主体と協働した事業の企画・実施

- ・地元企業とコンソーシアムを形成し、実証実験を実施
- ・各地区自主防災会と協力して訓練内容を検討し、避難訓練を実施した。
- ・男女共同参画団体やその他の団体等と協働して、日本女性会議を開催した。
- ・刈谷防災ボランティアやデンソーとの協働により、防災ボランティアコーディネーター養成講座などを開催している。
- ・図書館ボランティアと協力し、音声訳を行い読書バリアフリー資料を作成し、視覚障害者の方にお送りしたり、読み聞かせなどのイベントを開いた。
- ・福祉総務課で、市のボランティア団体や企業、社会福祉協議会の職員等で組織される福祉・健康フェスティバル実行委員会の委員としてイベントの企画・立案から当日の運営までを行った。
- ・生涯学習課で、新成人で構成される成人式実行委員会のメンバーと共に、成人式に向けて企画・立案し、当日の運営までを行った。
- ・認知症サポーターステップアップ講座やはいかい模擬訓練などを、サポーターである市民の方と実施した。
- ・子育て中の保護者に対し、スギ薬局と連携し、子育て講話（薬の話）を開催した。
- ・市民参加型の音楽劇の企画運営、実施
- ・環境に関する講座を市民団体と共に実施した。
- ・地区と事業者と連携してチョイソコかりや導入の停留所の検討や利用促進に関する取組を実施した。
- ・刈谷駅前商店街等と連携し、地域住民、事業者などと協働して刈谷駅周辺の花植えを春・秋の2回行った（花いっぱい運動）
- ・わんさか祭りにおいて、タクシー事業者の協力を得てUD タクシーの乗車体験を行った経験
- ・子ども会の行事を青年会議所とコラボして実施した。
- ・主に本市の玄関口である刈谷駅周辺において、にぎわいの創出や交流の促進を図るため、地区や商店街組合、NPO 法人、周辺企業などとイベントやマルシェなどを開催している。
- ・まちづくりに関係する団体と行政で実行委員会を組成し、企業からの事業協力や協賛金を得ながら音楽フェスの開催を予定している。

③市民団体等の立ち上げ・活動サポート（補助金交付など後方支援含む）

- ・身近な地域での支え合いを推進していくため、福祉委員会の活動を支援した
- ・ワールドスマイルガーデンツ木の運営・外国人市民団体の立ち上げ
- ・地域安全パトロール隊や地区への、防犯活動や交通安全活動を支援するための補助金交付事業。
- ・公園緑地課で地域団体が公園の清掃等を行う公園愛護会の業務を担当した。
- ・市婦人会担当
- ・老人クラブなど
- ・夢ファンド補助金業務
- ・公民館事業の支援

④専門機関・団体等との連携

- ・コロナ禍において、福祉サービス事業所に対する感染症対策について、刈谷豊田総合病院の感染症専門看護師と連携し、支援を必要とする事業所に対して感染症専門看護師を派遣できる制度を創設した。
- ・自治会の方々へまちづくりコーディネーターを紹介し、地域の課題解決に向けた取り組みを進めることができた。
- ・福祉団体とボランティア活動センターの連携を促したり、まちづくりコーディネーターの活用など
- ・子育て支援の一つとして、子育てコンシェルジュとして、各関係機関との連携
- ・高齢者見守り活動事業として新聞業者等と協定を結んだ。

⑤庁内における連携・交流の機会づくり

- ・職員同士の交流やネットワーク構築を目的として、交流会を開催した。

⑥（多様な主体が活躍できる）環境整備、運営

- ・自治基本条例の検証業務において、第5章参加及び共存・協働の存在意義や本市のまちづくりにおける位置づけなどを協議した。
- ・中小企業振興基本条例の制定と進捗管理
- ・自殺対策計画の中で、多様性について学び、計画に盛り込んだ。
- ・研修で色覚異常の方について学び、健診の案内の封筒に「きみどり」など文字を入れたり、障害のある方でも認識しやすい封筒にしました。
- ・生活支援体制整備（長寿課）
- ・育児の応援をしてほしい人と育児の応援をしたい人が会員となり助け合う「ファミリー・サポート・センター」の運営を行った。
- ・「地域学校協働活動」として、地域住民が学校活動に参画し、互いに交流・連携できる環境を整備した。
- ・刈谷駅周辺エリアの官民連携したまちづくりの推進に向け、エリアプラットフォームの構築に取り組んでいる。

⑦市民活動団体等に事業を委託

- ・施設の行事を行う際に、市民活動団体に委託して関わってもらった。
- ・NPO が持つノウハウを活かし、「中高生の居場所事業」「子ども・若者総合相談窓口」「子育て広場」などを展開した。
- ・子育て支援施設において、専門性の高い NPO 法人へ運営を委託し、身近な地域で安心して子育てができる環境整備を行った。

⑧共存・協働のまちづくりの推進に係る人材育成

- ・環境分野に関心のある市民の養成を図るため環境支援員の育成講座を実施した。
- ・男女共同参画意識向上のために、子育てカレッジやレディースカレッジを開催した。
- ・防災リーダー養成講座を開催した。
- ・まちづくりコーディネーター関係業務（まちコ養成講座の実施、まちコゼミ等）
- ・親子農業体験教室や、しょくまるファイブによる食育の推進活動を実施した。
- ・団体同士の交流やネットワーク構築、新規登録を図るためグループ・サークルの代表者を集め指導者研修を開催した。

問 6 : 問 4 で「 1 はい」と回答した方にお聞きます。②工夫したこと、課題だと思ったこと、あると良かった支援をお答えください。

答 6 : 110 人より回答あり。以下、内容別に抜粋して掲載。

| | ①工夫したこと | ②課題だと思ったこと |
|--|--|--|
| イ フ シ ョ ン リ テ | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな意見が出やすいように、引き出し役聞き役に徹した | <ul style="list-style-type: none"> ・意見が分かれた時に、限られた時間の中で話し合い、皆が納得する案に決定していくことが難しかったです。 ・場を提供するだけでなく、話題の提供や進行が必要だと感じた。 |
| 協 働 相 手 の 自 主 性 | <ul style="list-style-type: none"> ・団体ならではの専門性やネットワークを活かすよう、企画する上ではなるべく自主性を重んじた ・市が主導する形にならないよう、話し合いを重ね、講座内容を決めていった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題として自主性を引き出すこと ・単発でイベントを実施してもまちの人が当事者意識を持つことは難しい。そのため、継続して実施していくことが重要。 ・付きすぎず、離れすぎないバランスをとることが難しい。 |
| 目 的 ・ 自 分 ご と の 考 え 方 の 共 有 | <ul style="list-style-type: none"> ・会議に臨む前に考え方の共有を念入りに行った。 ・国の取組や参考事例を見せながら具体的なイメージを持ってもらえるように工夫した。 ・信頼関係を構築する前に、行政の考え方を丁寧に説明することは必要不可欠。行政として何ができて、何ができないのか、行政の立ち位置を理解してもらうことも重要。 | <ul style="list-style-type: none"> ・行政目指す施策の方向と協働相手が考える方向を同じにすることが課題 ・最初はどうしても市はなにをしたいのか、やってくれるのかという姿勢になりがちなため、行政に頼り切るのではなく、住民自らが主体的に行動を起こす必要があることを理解いただくのに多くの時間を要す。 ・地域によって活動に対する理解度や活動内容の差があった。 |
| 役 割 分 担 | <ul style="list-style-type: none"> ・国や県、有識者や市民活動団体と協議して計画書を作成し、各団体の役割を明確化した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・協働相手と市の役割分担が難しいと感じた。 |
| 広 報 、 参 加 者 募 集 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容を積極的に発信するようになりました。 ・特典づくり ・広報が課題であったが、地域に受け入れられる活動にするために自治会を巻き込んで取り組みを推進した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・参加する市民メンバーが固定化されてしまうので、いかに多くの市民に参加してもらうかが課題 ・一部のやる気のある人だけが積極的にかかわることになりがち。 ・市民公募をかけたが思うように人が集まらなくて、各方面の団体に営業に回って応募してもらった。 |

| | | |
|--|---|--|
| マッ チ ン グ 機 能、 情 報 の 一 元 化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動センターの認知度を上げるため、色々な会議の場やイベントの際に、ボランティア活動センターの活用方法の説明をしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアを必要とする人とボランティア団体とのマッチングが課題だと思った。 ・職員がボランティア活動センターの機能を理解していないケースが多いので、職員向けの説明があっても良い。 ・刈谷市にどのような社会資源があるのかが共有されず、新しいものを生み出そうとする思考が常にあって、ムダムラを感じていた。 ・補助金や支援できること（市の情報発信ツールや使える公共空間、その使い方等）の情報が統一されていないため、課の垣根を超えた連携が必要。 |
| そ の 他 | <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの <u>WIN</u> となる取組を意識して実証を行う。 ・お互いの強みを活かしながら、苦手とする分野を補完し合い、無理や負担が大きくならないように工夫した。 ・行政として、各事業団体等と同じ目線で活動しながら、<u>事業全体も俯瞰できる目線も併せ持つ</u>よう心掛けた。 ・一気に市全体で行うのではなく、<u>少数のモデル校を決め展開</u>を始め、そこでの成功事例を作りながら数年をかけ他校に広げた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・互いの役員が頻繁に交代する中で、<u>持続可能な協力体制の維持が難しい</u>。 ・継続的な事業であるため、<u>団体の人数減少や高齢化</u>などの不安がある。 ・<u>担い手不足と団体によって作業精度に差があること</u> ・地域の機運を「我が事」として考える市民（団体）に対して、それを<u>支える仕組みがない</u>。 ・<u>市民協働課職員は業務として携わる</u>（例：休日、夜間等時間外手当が発生）が、<u>他の職員は業務外のため、あくまで参画が任意であること</u>。 ・障害に関する<u>要望等について、どこまで計画に盛り込むのか</u>等が課題だと感じた。 ・国保年金課、健康推進課、長寿課の連携により実施しているが、<u>会計処理上、事業または会計が異なるため、整理や理解が難しい</u>。 ・さまざまな人が関わるので<u>調整に時間がかかること</u> |

③あると良かった支援

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体と地区（自治会）が協力できる仕組やイベントがあると良い ・地域の人材バンクのようなものがあるとよい ・個人の自由時間を利用して事業に関わってくれるため、駐車場代などの最低限の必要経費程度は支給できるとよかった ・合意形成に向けた進行 ・地区各々状況が異なるため、調整役となる人がいるとよかった。 |
|--|

問 7：これまで市の事業に関する意見交換・対話の場を持った経験はありますか？

答 7：

- ・「ある」は全体 29%、「ない」全体 62%の結果となり、経験がない割合が高い結果となった。
- ・職位が上がるほど経験があり、課長級以上では「ある」が「ない」を上回る。

| 職位 | ある (数) | ない (数) | 経験・予 定なし(数) | ある (%) | ない (%) | 経験・予 定なし(%) | 小計 (数) |
|-----------|-----------|-----------|----------------|------------|------------|----------------|-----------|
| 部長級 | 15 | 0 | 0 | 100% | 0% | 0% | 15 |
| 課長級・監級 | 29 | 14 | 0 | 67% | 33% | 0% | 43 |
| 課長補佐級 | 32 | 33 | 2 | 48% | 49% | 3% | 67 |
| 係長級 | 67 | 75 | 2 | 47% | 52% | 1% | 144 |
| 主査級・主任主査級 | 72 | 172 | 24 | 27% | 64% | 9% | 268 |
| 主事級 | 57 | 259 | 47 | 16% | 71% | 13% | 363 |
| 技能労務職 | 0 | 16 | 11 | 0% | 59% | 41% | 27 |
| 全体 | 272 | 569 | 86 | 29% | 62% | 9% | 927 |

問 8：問 7 で「ある」と回答した方にお聞きます。対話した相手に当てはまるものをすべて選んでください。

答 8：対話の相手として、「市民」69%、「地域団体」62%、「事業者」55%、「市民活動団体」52%の順に続いた。

(n = 272)

| 対話した相手 | (数) | (%) |
|---------|-----|------------|
| 市民 | 187 | 69% |
| 地域団体 | 169 | 62% |
| 事業者 | 150 | 55% |
| 市民活動団体 | 142 | 52% |
| 行政（他部署） | 122 | 45% |
| 教育機関等 | 76 | 28% |

問 9：問 7 で「ない」もしくは「経験もなく、する予定もない」と回答した方にお聞きます。回答した理由として当てはまる状況をすべて選んでください。

答 9：「参加対象となる団体の意向・団体の不在」、「実施部署の会議設計のノウハウ・経験不足」、「参加対象となる部署の認識・意向」18%と同数の結果となった。

(n = 655)

| 理由 | (数) | (%) |
|---------------------|-----|------------|
| 参加対象となる団体の意向・団体の不在 | 121 | 18% |
| 実施部署の会議設計のノウハウ・経験不足 | 119 | 18% |
| 参加対象となる部署の認識・意向 | 118 | 18% |
| 必要性を感じない | 101 | 15% |
| 実施部署の人的体制不足 | 90 | 14% |
| ファシリテーター等の協力体制不足 | 35 | 5% |
| 予算の制約 | 14 | 2% |
| その他 | 111 | 17% |
| 未選択 | 89 | 14% |

「その他」回答者のうち、60 人よりコメント記入あり。以下、抜粋して掲載。

- ・所属部署での業務において取り入れる機会がない
- ・アンケートを実施し、意見を収集している
- ・幼稚園・保育園等の勤務では、インクルーシブ保育を目指して保育をしているので、共存には通じると思うが、刈谷市のまちづくりとなると、蚊帳の外のような感覚になる。庁内がすすめるまちづくりの中への位置づけや働きについてよく分からないのが本音。
- ・具体的にどのような部署とどのようなつながりができるのか、また、どのようなつながりが共存・協働のまちづくりの推進と言えるのかがイメージできないため。
- ・業務体制や業務の流れが共存・協働を意識したものになっていなかった。
- ・今の業務が当てはまるかが分からない
- ・どのように取り入れてよいか分からない

問 10：現在の部署において、他部署や市民活動団体等と連携して事業を行う必要性を感じますか？

答 10：

- ・「はい」は全体で 49%、「いいえ」は全体で 51%の結果となり、ほぼ拮抗した結果となった。
- ・職位が上がるほど必要性を感じる割合が高く、係長級以上では「はい」がやや多いが、主査級・主任主査級、主事級では「いいえ」が優勢であった。立場や業務内容により、協働の必要性に関する実感の差が伺える。

| 職位 | はい (数) | いいえ (数) | はい (%) | いいえ (%) | 小計 (数) |
|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|
| 部長級 | 12 | 3 | 80% | 20% | 15 |
| 課長級・監級 | 28 | 15 | 65% | 35% | 43 |
| 課長補佐級 | 34 | 33 | 51% | 49% | 67 |
| 係長級 | 74 | 70 | 51% | 49% | 144 |
| 主査級・主任主査級 | 130 | 138 | 49% | 51% | 268 |
| 主事級 | 165 | 198 | 45% | 55% | 363 |
| 技能労務職 | 11 | 16 | 41% | 59% | 27 |
| 全体 | 454 | 473 | 49% | 51% | 927 |

問 11：問 10 で「はい」と回答した方にお聞きます。どのような事業をどのような部署、どのような団体等と取り組む必要があると考えますか？

答 11：237 人より回答あり。以下、抜粋して掲載。

- ・ふるさと納税の業務（刈谷の魅力発信事業）において、事業者と連携して魅力的な返礼品を開発する等。
- ・展覧会やイベント等での来館促進の協力や事業の共同実施
- ・類似用途施設の合併や利用率のよくない空間の利用を考える上で、所管している課と連携し、運営する面での意見をくみ上げ、あり方を検討する必要があると思う。
- ・災害時の要配慮者対応における個別避難計画作成に係る業務、福祉部局
- ・福祉避難所や一般避難所の障害者対応について、医療的ケア児を抱えている保護者や障害者団体とともに、仕組みづくりを検討してもよいと思う。福祉総務課、長寿課、危機管理課、福祉団体、学校教育課、教育総務課など
- ・多文化共生や国際交流の関する外国人対応・支援の取組や交流活動を推進する取組は、主に生活に深く

関連する庁内部署や防災関連の部署、地域で交流活動を行っている団体等と連携する必要がある。

- ・地域で活躍するコーディネーターの把握や連携に関することについて、学校教育課・社会福祉協議会・自治会・大学等と情報共有しながら取り組めるとよい。
- ・終活、死後事務などについて、社協や長寿課などと連携して取り組む必要がある。
- ・健康推進課と長寿課で、対象者がほぼ等しい介護予防の事業があり、連携ができたとしたら、市民を惑わすこともなく、周知がしやすくなるのではないかと思う。
- ・ヤングケアラー支援について、問題は多岐にわたるため教育委員会や介護、障害など他部署との連携が必要。
- ・ボランティア団体を抱える所管課と一体的な取り組みができるとよい。人手不足の共通課題を抱えている。例えば、有償ボランティアとして地区活動してもらうような仕掛けなどできるとよいのでは。
- ・保育士確保の取組を教育委員会や大学等と。
- ・建設事業の際、地域団体、世代の属する団体、事業者団体、福祉、障害者団体などの意見を伺い反映する必要がある
- ・公共交通のあり方やバリアフリーの考え方を高齢者、障がい者の所管部署や関係団体、民間事業者などと一緒に取り組む必要がある。

問 12：共存・協働のまちづくりの推進に向け、市民協働課で取り組んでいる以下の事業等について、知っていますか？知っているものをすべて選んでください（すべて知らない場合は4を選んでください）。

答 12：

- ・「まちづくりコーディネーター」は49%であり、約半数に認知されている。「協働のまつり場」は31%、「つながるネット」は27%と続いた。
- ・「すべて知らない」は39%であった。

(n=927)

| 事業等 | (数) | (%) |
|---------------|-----|-----|
| まちづくりコーディネーター | 458 | 49% |
| 協働のまつり場 | 291 | 31% |
| かりや衣浦つながるネット | 253 | 27% |
| すべて知らない | 364 | 39% |

問 13：共存・協働のまちづくりに取り組む際に主な課題として思うことは何ですか？当てはまるものをすべて選んでください。

答 13：

- ・「何を共存・協働したらよいのか分からない」が47%で、前回調査56%から10%減少したものの、約半数を占めている。
- ・「共存・協働の手法が分からない」が34%（前回調査32%）と微増、また「共存・協働をする相手が分からない」が18%（前回調査13%）と増加しており、相手の見つけ方を含めた手法の理解の必要性が伺える。
- ・「相手方の行政への依存が強い」が26%（前回調査41%）と減少しており、協働相手の姿勢の変化が伺える。

| 主な課題 | (n = 927) | | (n=430) | |
|-----------------------------------|-----------|------------|---------|------------|
| | (数) | (%) | 前回 (数) | 前回 (%) |
| 何を共存・協働したらよいのか分からない (共存・協働の領域) | 432 | 47% | 241 | 56% |
| 共存・協働の手法が分からない | 315 | 34% | 136 | 32% |
| 相手方の行政への依存が強い | 245 | 26% | 176 | 41% |
| 共存・協働がよく分からない | 183 | 20% | 84 | 20% |
| 共存・協働をする相手が分からない | 169 | 18% | 57 | 13% |
| 共存・協働のメリットが感じられない | 55 | 6% | 41 | 10% |
| その他 | 39 | 4% | 31 | 7% |
| 特になし | 107 | 12% | — | — |

「その他」回答者のうち、38 人よりコメント記入あり。以下、抜粋して掲載。

- ・相手方のメリットをいかに生み出せるか
- ・共存・協働する相手が育っていない。
- ・引き際
- ・他課とのすり合わせ、協働関係の構築
- ・取り組むには時間と労力がかかるため、他業務を圧迫したり、夜間や休日等プライベートの時間が割かれること。
- ・市としては要望を受け付ける、受け付けないの関係になりがちである点。団体としては予算への反映が制約になる点（事業を進めようと思ったら 1 年前から事前調整が必要になるが、団体としてはすぐ進めたいという考えで、齟齬が発生する）
- ・先方のコストに対する対価をどう考えるかについて、市の指針のようなものが必要だと思う
- ・一緒に作り上げていくという市民の意識改革（市民側のメリットがない、行政の役割ではないか、といった思いが強いのではないか）
- ・施策として掲げている以上仕方ないが、市が描く共存・協働のフレームに活動をあてはめようと意識しすぎないこと。
- ・地域団体の継続性（人数減、役員交代時の引き継ぎ不足等）
- ・意見等を聞いた際に、その意見をどこまで聞き入れなければならないかわからないため、気軽に意見を聞くことに不安を感じる

問 14：その他、共存・協働に対するご意見等がありましたらご記入ください。

答 14：32 人より回答あり。以下、抜粋して掲載。

- ・現状行政から共存・協働に関する動きはあるものの、まだそれぞれの団体が個々で活動しているイメージが強い。今後は団体の人たちに共存・協働を意識してもらえるような周知等働きかけを行っていく必要があると感じる。
- ・異なる事業や所管課であるのに、共存・協働の相手が特定の団体や個人とばかりになりがちと感じる。立場の違う多くの団体や個人と共存・協働がなされるように配慮が必要だと思う。
- ・行政と市民活動団体が自立した団体同士として対等な関係で議論しながら協働できるとよいのですが、業務を委託していると委託-受託の関係があり、お金を支払う—受け取る関係ができ、なかなか対等な立場にはなりにくいと感じています。
- ・共存・協働は、行政にはない考え方やノウハウを得られる一方、考え方や思想などによりミスマッチとなるリスクもはらんでいるだけに、慎重にせざるを得ない側面もあると思われます。そういった感覚(嗅覚?)について、経験のあ

る職員や市民協働課の職員などにサポートを頂ければ心強いと思います。

- ・このアンケート結果で、庁内での連携・協働のマッチングができれば、還元してほしいです。

- ・既に市内にある任意団体等を支える仕組みを構築しなければ、新たに行政サービスを構築するばかりになってしまわないか。今後、地域の繋がり築くための行政サービス設計も必要かと思います。

- ・何をもって「共存・協働」というのか、その解釈は本来は幅が広いはずだが、どうしても「市民・NPO と連携した社会課題解決」と思われる傾向が強い。民間事業者が社会課題解決に参画するようになってきており、一般的にも「共創」という言葉が生まれている（交通分野でも）。時代が変化し、ファクターもツールも変化している中、共存・協働の解釈の仕方を柔軟にしていくことが必要ではないか。

- ・庁内のいろんな部署の人も参加して、市民向け自分ごと化会議を実践してみる。

- ・共存・協働の取り組みは地域により独自性を持つため、一律の正解はなく、いかに地域団体などを巻き込んでいくかが重要です。